



思考力・表現力・協働性の評価を目指して —九州大学21世紀プログラムの場合—

林 篤裕

(九州大学 基幹教育院
& アドミッションセンター)

(21世紀プログラム主導教員)

e-mail: hayashi@artsci.kyushu-u.ac.jp



歴史

学部を中心に

- 1867 黒田藩医学校 養生館
- 1877 福岡病院
- 1879 福岡県立 福岡医学校附属病院
- 1888 福岡県立 福岡病院
- 1903 京都帝国大学 福岡医科大学

1911
九州帝国大学

東京、京都、東北
に続く4番目の
帝国大学として

- 1911 九州帝国大学 医科大学、工科大学
- 1919 医学部、工学部、農学部
- 1924 法文学部
- 1939 理学部
- 1947 (旧制) 九州大学
- 1949 (新制) 九州大学 文学部、教育学部、法学部、経済学部
- 1964 薬学部
- 1967 歯学部
- 2003 芸術工学部 (九州芸術工科大学と統合)
- 2004 国立大学法人 九州大学



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の新世紀を拓く

2011
100周年

九州大学 概要

総長1・理事8・監事2 計11名

学部 11 (+1)
大学院学府 18

附置研究所等 4
附属図書館 1 (分館6)
(蔵書約400万冊)
病院 1 (約1,200床)
全国共同利用施設 1
学内共同教育研究施設 37
機構 4

2014年5月1日現在

学部学生 11,859名
(女子 3,344名)
大学院生 6,987名
(女子 1,926名)

外国人留学生
1,972名 (79ヶ国・地域)
学生の海外留学 2013年度
612名 (42ヶ国・地域)

教員 2,106名
教授 699名
准教授・講師 732名
助教他 675名
事務・技術職員
2,010名

学部卒業
約14.0万人
修士修了
約5.0万人
博士学位
約2.7万人

土地 約76km²
福岡、長崎、熊本、
大分、宮崎、鹿児島、
北海道



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の新世紀を拓く

2016年度(平成28年度) 入学者選抜

一般入試
センター試験+個別学力検査

前期日程
全11学部 2,045人

80.0%

後期日程

教育、医、芸工を除く
8学部 315人

12.3%

入学定員
2,555人
=====
11学部
+
21世紀
プログラム

AO入試

AO入試 I
[センター試験を課さない]
教育、
21世紀プログラム
36人

7.6%

AO入試 II
[センター試験を課す]
法、理(全学科)、医・保健、
歯、芸工(全学科)、農
159人

帰国子女
私費外国人留学生

九州大学AO入試 2016年度AO入試

| | |
|--------|----|
| 文学部 | |
| 教育学部 ★ | 10 |
| 法学部 | 10 |
| 経済学部 | |
| 理学部 | 10 |
| 化学 | 15 |
| 地球惑星 | 8 |
| 数学 | 8 |
| 生物 | 5 |
| 医学部 | |
| 生命科学 | |
| 看護 | 9 |
| 保健 | 6 |
| 放射線 | 6 |
| 検査 | 6 |

21世紀プログラム
★
26

| | |
|-------|--------|
| 歯学部 | 8 |
| 薬学部 | 創薬科学 |
| | 臨床薬学 |
| 工学部 | |
| 環境設計 | 8 |
| 工業設計 | 15 |
| 芸術工学部 | 画像設計 |
| | 18 |
| | 音響設計 |
| | 5 |
| | 芸術情報設計 |
| | 8 |
| 農学部 | 20 |

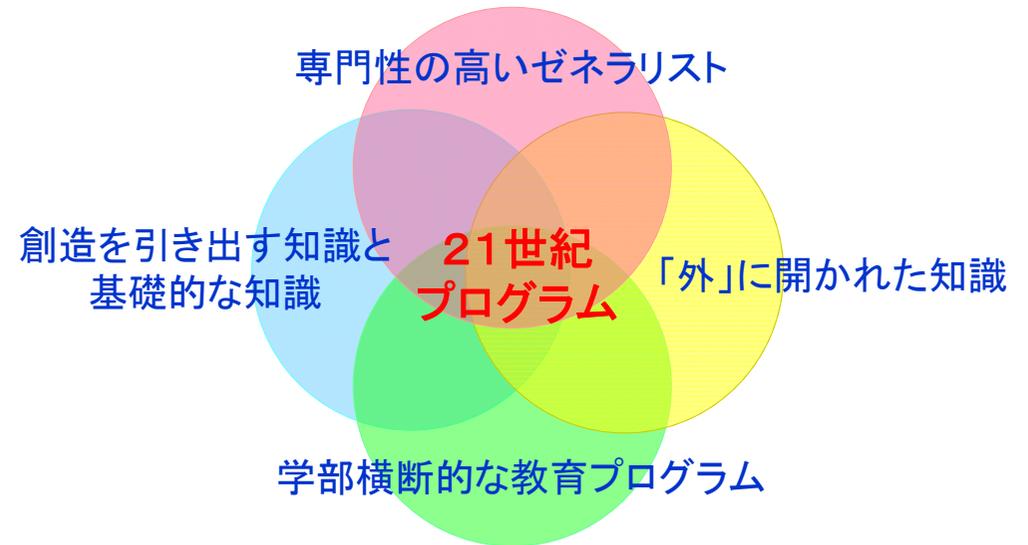
7+1学部 18募集区分
総募集人員 195名

定員の
7.6%

★:センター試験を課さない

5

The 21st Century Program 理念



6

21世紀プログラム:教育の枠組み

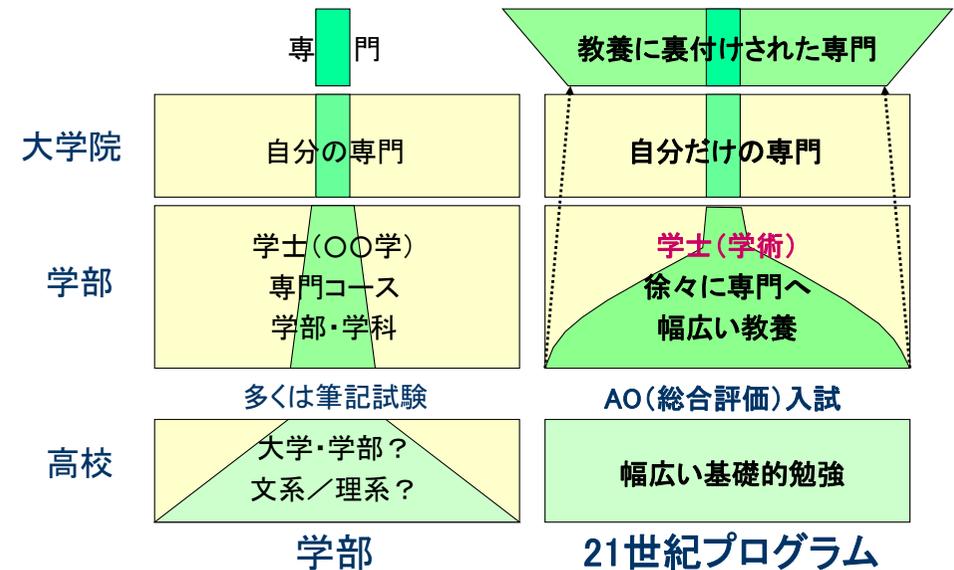
2003年度 文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択



幅広い教養、表現力、国際性を身につけ、チューターの指導を受けつつ、
いろいろな学部の専門を組み合わせる「自分だけの専門」を創る。

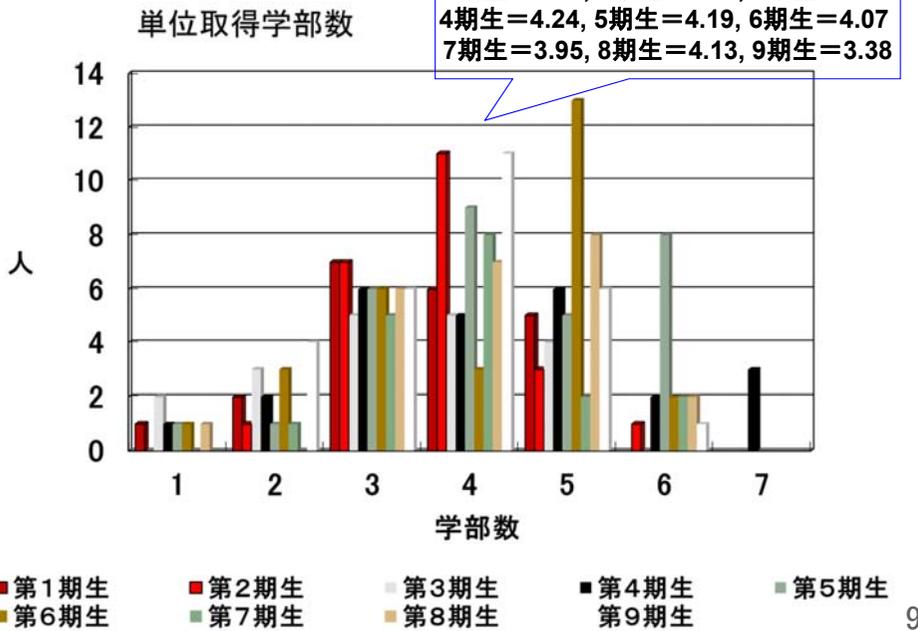
7

21世紀プログラム 専門を決める

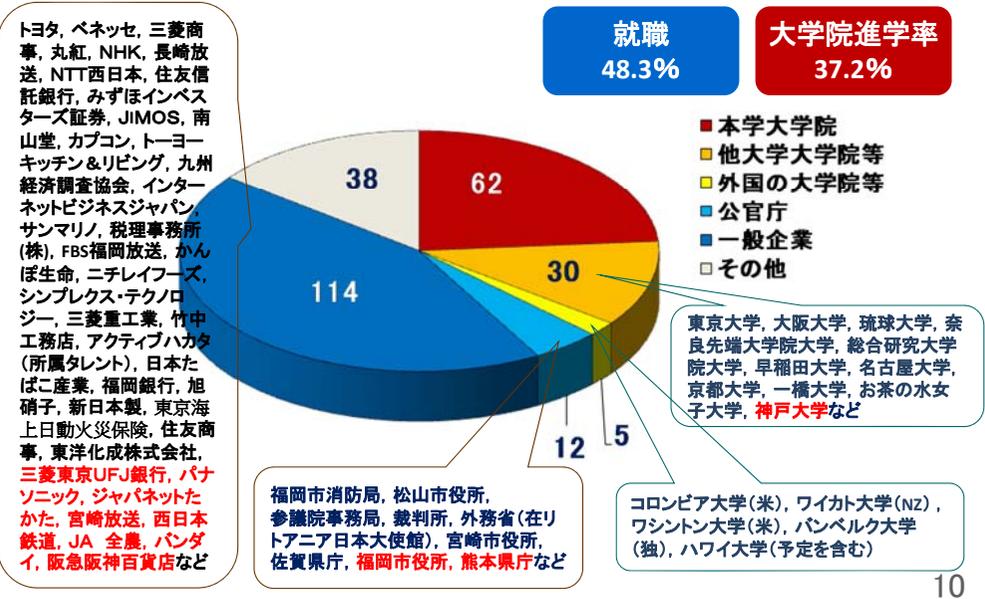


8

1期生=3.95, 2期生=4.09, 3期生=3.32
4期生=4.24, 5期生=4.19, 6期生=4.07
7期生=3.95, 8期生=4.13, 9期生=3.38

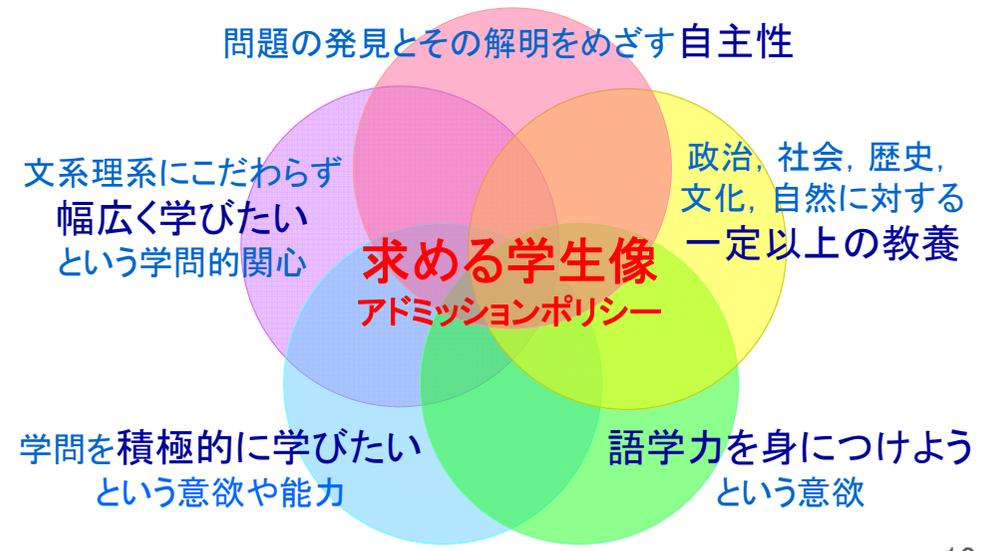


卒業した第1期生～第11期生(261名)



| | 入学期 | 募集 | 合格者 | 年度 | 入学者 | 転課程学部 | 交換留学 | 語学研修等 | 卒業者 | うち大学院進学者 | |
|------|----------|----|----------|---------|----------|---------|-------|-------|-----|----------|----|
| | | | | | | | | | | | |
| 卒業 | 1期 | 18 | 20 (5) | 2001 | 20 (5) | 1 (0) | | | | | |
| | 2期 | | 22 (6) | 2002 | 22 (6) | 2 (1) | 7 | | | | |
| | 3期 | 21 | 19 (5) | 2003 | 19 (5) | 0 (0) | 8 | 20 | | | |
| | 4期 | 26 | 25 (5) | 2004 | 25 (5) | 1 (1) | 5 | 8 | 16 | 11 | |
| | 5期 | | 30 (12) | 2005 | 30 (12) | 1 (0) | 2 | 4 | 25 | 12 | |
| | 6期 | | 27 (7) | 2006 | 26 (7) | 2 (1) | 10 | 5 | 15 | 9 | |
| | 7期 | | 27 (9) | 2007 | 26 (8) | 2 (1) | 10 | 2 | 20 | 9 | |
| | 8期 | | 27 (10) | 2008 | 27 (10) | 2 (1) | 6 | 4 | 33 | 13 | |
| | 9期 | | 28 (7) | 2009 | 27 (7) | 1 (0) | 9 | 4 | 28 | 7 | |
| | 10期 | | 27 (6) | 2010 | 27 (6) | 1 (0) | 10 | 6 | 19 | 9 | |
| | 11期 | | 25 (8) | 2011 | 25 (8) | 0 (0) | 7 | 8 | 27 | 8 | |
| 在学 | 12期 | | | 28 (10) | 2012 | 28 (10) | 0 (0) | 6 | 17 | 30 | 11 |
| | 13期 | | | 25 (9) | 2013 | 25 (9) | 1 (0) | 13 | 10 | 24 | 4 |
| | 14期 | | 25 (5) | 2014 | 25 (5) | 0 (0) | 9 | 18 | 24 | 4 | |
| | 15期 | | 25 (7) | 2015 | 24 (7) | 0 (0) | | | | | |
| 総計 | | | 380(111) | | 376(110) | 14 (6) | 102 | 106 | 261 | 97 | |
| 在学生数 | 103 (31) | | | | | | | | | | |

(カッコは男子で内数。2015/4/1現在)



| | | |
|-------|--------------------|-----------------|
| 願書受付 | 9月下旬 | 9/22(月)~26(金) |
| | 調査書, 志望理由書, 活動歴報告書 | |
| 第1次選抜 | 10月中旬 書類審査 | 10/17(金) 1次合格発表 |
| 第2次選抜 | 11月上旬 | |
| 第1日目 | 講義・レポート (3テーマ) | 11/1(土) |
| 第2日目 | グループ討論, 小論文, 個人面接 | 11/2(日) |
| 合格発表 | 11月下旬 | 11/25(火) 2次合格発表 |

選抜の過程が入学後の修学の過程

(日程は2015年度のもの) 13

第1次選抜

- ◆ 出願時提出資料
 - ◆ 志望理由書(2面)
 - 志望する理由、自己の適性や抱負
 - ◆ 調査書等(内申書)
 - ◆ 活動歴報告書(2面): 中学からの活動を記載可
 - 各種活動、表彰、資格等
- ◆ 書類審査
 - ◆ 「AP」や「求める学生像」との合致度合を評価
 - 理念の理解度等
 - ◆ 試験場施設の関係から3倍程度に絞る
(2015年度の例では73名。2.8倍)

14

第2次選抜



第1日目(土曜日)

9:30-11:30 講義1・レポート1 (120分)

軸が違う3テーマ
講義:約50分
レポート:約70分

12:30-14:30 講義2・レポート2 (120分)

15:00-17:00 講義3・レポート3 (120分)

講義や資料に
英語を含むことがある

第2日目(日曜日)

論題は当日朝に提示(“予習”を避けるため)

9:00-11:30 グループ討論 (150分)

3つの講義から2つを選んで討論

12:30-17:00 小論文 (270分)、個人面接

15分/人

3つの講義のいずれかに関連するテーマを設定して作成

随時別室で休憩可

15

| 年度 | 題目 | |
|---------------|---|---|
| H23 (2011) | 1 日本における死因究明制度 | 直近5年分。 全部で 15年分あり。 |
| | 2 おとぎ話とジェンダー | |
| | 3 学ぶことと働くこと | |
| H24 (2012) | 1 放射線と健康の科学 | ☞ 楽しく受験することができてよかった |
| | 2 歴史 学問と教科の間 | ☞ いろいろな方がいてとても楽しかった |
| | 3 民主主義の根底にあるもの | ☞ 心底惚れ込みました。絶対に来たい |
| H25 (2013) | 1 「邪馬台国」と考古学 — 通説と考古学 | ☞ 大学の講義を聴いただけでも、 受けた甲斐があった... |
| | 2 独裁体制はいかに維持されるのか | |
| | 3 The Wonder of Water (水の不思議) | |
| H26 (2014) | 1 心は物質に還元できるか? | ☞ 何の話があるのか興味津々だった |
| | 2 世界のイノベーション構造の変化 —「リバースイノベーション」、「イノベーションの | ☞ 受験と感じないほど明るい雰囲気 ☞ 初めて会った人とも気軽に話 |
| | 3 生物の自己複製 —DNA複製からiPS細胞の作成まで— | |
| H27 (2015) | 1 身の回りの確率論 — 確率を使って — |  |
| | 2 里地・里山の保全と農山村の持続性 ～人口減少社会と集中豪雨災害～ | |
| | 3 古語は辺境に残る? — 言語史研究の方法 — | |

第2次選抜 グループ分け(討論、面接)

- ◆ 5グループ、各16名程度
- ◆ 第1次成績を均等化
- ◆ 右表をベースにし、加えて
 - ◆ 男女比が均等
 - ◆ 現浪比が均等
 - ◆ 地域性が均等
 - ◆ 同一高校別グループ
 になるようにグループを編成

第1次成績

| | あ | い | う | え | お |
|--|---------|---------|----|---------|----|
| | 1 → 2 | 3 | 4 | 5 | |
| | 10 | 9 | 8 | 7 ← 6 | |
| | ↓ | 11 → 12 | 13 | 14 | 15 |
| | 20 | 19 | 18 | 17 ← 16 | |
| | ↓ | 21 → 22 | 23 | 24 | 25 |
| | 30 ← 29 | 28 | 27 | 26 | |

17

| 1次 | 書類審査 | 2次 | 講義1 | 講義2 | 講義3 | | |
|--------|---------------|---------|---------------------------------|------|------|----------------|------|
| 委員 | ●●●● | A委員 | ●●●● | ●●●● | ●●●● | 他に監督等 5~10名 | |
| 志望理由書 | 全志願者 (99名) | レポート | ●: 主担当 | | | | |
| 調査書等 | | 小論文 | 全受験生(73名) | | | | |
| 活動歴報告書 | | 選択した受験生 | | | | | |
| | | 2次 | あ | い | う | え | お |
| | | B委員 | ●●●● | ●●●● | ●●●● | ●●●● | ●●●● |
| | | 討論 | ●: 文系、●: 理系、●: カウンセラー / 3名中1名女性 | | | | |
| | | 面接 | 1グループ受験生14~15名 | | | | |

(人数は2015年度のもの)

- ◆ 評価は、A~Dの4段階評価
(活動歴報告書は3段階評価)

18

評価方法

- ◆ 評価: A~D (活動歴報告書はA~C)
- ◆ 評価順位: 1位~48位: 直方体のセル
- ◆ 評価(順位)点: 1位~受験者数
 - ◆ 同一順位の人数を考慮した順位
- ◆ 合計評価点: 評価者ごとの順位の総和
 - ◆ 値が小さい方が高順位
- ◆ 査定
 - ◆ 選抜に関係した35名程度で行う
 - ◆ 討論・面接時の対応、レポート・小論文の評価
 - ◆ D評価を付けた理由について
 - ◆

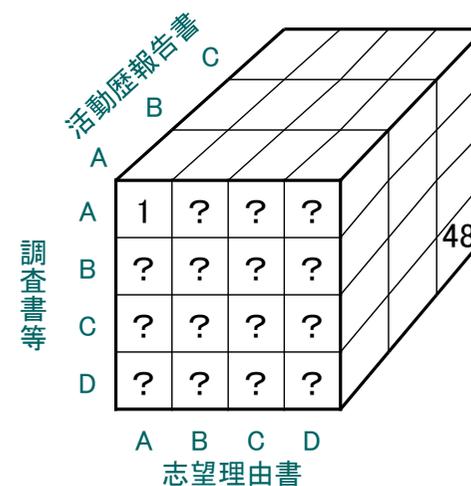
19

多次元マトリックス方式

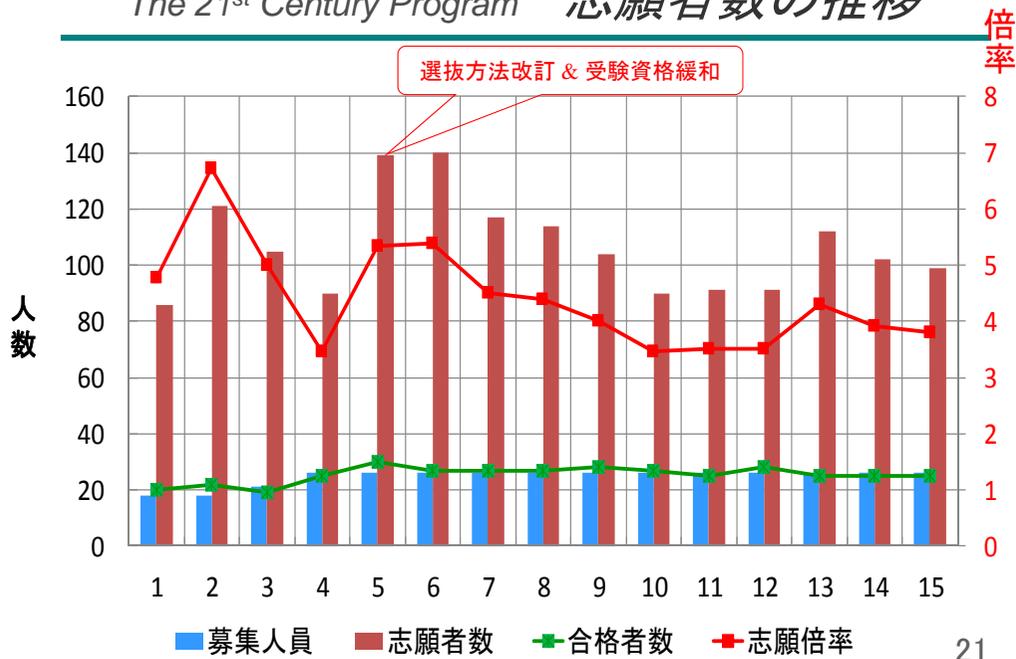
例: 第1次選抜の順位付け(3次元)

1次: 書類審査
4名の委員が各々に
全受験生を評価

- ① 志望理由書
 - ② 調査書等
 - ③ 活動歴報告書
- を3次元で評価



20



まとめ: 21世紀プログラム

- ◆九州大学独自の学部横断型教育
 - ◆「専門性の高いジェネラリスト」
 - ◆総合大学の利点を活かした教育: 全11学部を履修可
 - ◆アクティブな学生の効用: 「カナリア効果」
- ◆「大学入試」というもの
 - ◆多様な学生の発掘を実現する手段の工夫・駆使
 - 教科学力の担保は外せない
- ◆志願者を増やす方策を: 21cpの魅力伝えねば
 - ◆より一層の広報が必要: 進学説明会やOC等で
- ◆“AO入試”という呼称と、その理解のされ方
 - ◆この点の広報も

まとめ: 21cpの入試方法

- ◆大学教育の一端を体験: 講義、ゼミ、レポート等
 - 聞く、読む、考える、議論する、まとめる、.....
 - 思考力、表現力、協働性、.....
- ◆日頃の高校生活を評価: “対策は不要”
 - 何を考えてきた? 大学に何を求めている? その準備状況は?
- ◆非常に手間がかかる → ◆惜しむべきではない
 - 受験側だけでなく実施側も ◆“良い”学生の獲得
 - 準備、委員の選定・確保 ◆理念に沿った学生
 - 評価方法、公平性、..... ◆改良を続けながら継続
- ◆1次と2次の相関: 低いことも十分有り得る
 - ◆1次における“優秀な”受験生の取りこぼしは回避せねば
- ◆今後の主流(or 傍流)となるかは不明
 - ◆特に大人数に対しての方法としては困難が予想される

参考資料

- 中央教育審議会 高大接続特別部会 (第7回), 三田共用会議所(東京), 平成25年5月24日。
- 「高大接続特別部会△第7回△議事録」で検索すると、「第7回」のところに議事録と配付資料へのリンクあり(5月20日時点では)。
- www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo12/giji_list/

文部科学省 教育課程課 編集

- 『中等教育資料』平成27年5月号, PP20-25, 特集 高等学校教育と大学教育の円滑な接続, 実践研究

「思考力・判断力の評価に重点を置いた選抜試験
～九州大学21世紀プログラムを例に～」。